

V 試験研究発表題名

令和4年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. 桃原郁夫. おとなの自由研究 第4回～木材腐朽菌～. agreeable、62:6-7
2. 桃原郁夫. おとなの自由研究 第5回～木材腐朽菌～. agreeable、63:6-7
3. 桃原郁夫. 木材保存とSDGs. 木材工業、77 (11):464-467
4. 桃原郁夫. おとなの自由研究 第6回～木材腐朽菌～. agreeable、64:6-7
5. 桃原郁夫. 第12回木材利用シンポジウムに参加して. 木材工業、77 (12):537-539
6. 桃原郁夫. 生存時間分析の野外杭試験データへの適用とその成果. 生物劣化研究会秋季研究会講演要旨集 (日本木材学会) (2022) - "木材腐朽" に関わる多様な研究の今
7. 桃原郁夫, 神原広平, 松永浩史, 山本幸一 (日本木材保存協会). 林業試験場素材耐久性試験結果の再評価. 木材学会誌、69 (1):41-48
8. 桃原郁夫. 第4章 木材製品とその特徴 Q8: 木材はなぜ劣化するのですか?、Q9: 木材の劣化はどのように発生しますか?、Q10: 木材の劣化対策はどうすればよいですか? . Q&A でわかる土木と木材、39-41
9. 桃原郁夫. 18.1 腐朽と防腐. 木材学 (応用編)、157-162
10. 鷹尾元. 森林の樹種分類と林相区分図. リモートセンシング事典 (丸善出版、730 頁)、250-251
11. 鷹尾元, 岡田康彦, 村上亘, 高橋興明, 高橋正義, 壁谷大介, 宮本和樹, 櫃間岳, 鈴木孝典 (茨城県林業技術センター), 富田衣里 (茨城県林業技術センター), 萩原晟也 (福岡県農林業総合試験場). 災害危険度の高い民有林を探して管理するための技術と方法を開発し伝える. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-053
12. 石橋聰, 古家直行, 鷹尾元, 高橋正義, 佐々木尚三. 北海道東部弟子屈天然林における長期林分成長モニタリング. 森林総合研究所研究報告、21 (3):239-245
13. 高橋正義, 山田祐亮, 鷹尾元, 岡田康彦, 村上亘, 壁谷大介, 櫃間岳, 宮本和樹, 荒木真岳. 管理優先度の高い森林と公的管理に関する現状と課題. 日本森林学会大会学術講演集、134:D1
14. 浦野忠久, 砂村栄力. クビアカツヤカミキリに対するサビマダラオオホソカタムシの室内放飼試験. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、67:I-11
15. 浦野忠久. モモにもクビアカツヤカミキリの危機が迫っています. 森林総合研究所関西支所研究情報、145:2-3
16. 浦野忠久. 高まる外来生物対策の重要性. 森林総合研究所関西支所研究情報、146:1
17. 細田育広. 85年目を迎えた竜ノ口山の水源涵養機能試験. 森林総合研究所関西支所研究情報、144:1
18. 久保田多余子, 阿部俊夫, 細田育広. 流域水収支法で推定した非積雪期の長期蒸発散量と気象要素との関係. 水文・水資源学会/日本水文学会研究発表会要旨集 (2022)、PP-1-23
19. 細田育広. 山地小流域の地下水変動と水流出の観測 < 岡山県 竜ノ口山森林理水試験地における水文観測 >、山の歴史と野生との攻防. 砂防の観測の現場を訪ねて3～水の動きの不思議～ (砂防学会、出版プロジェクト委員会 (編))、91-102、103
20. 阿部俊夫, 久保田多余子, 野口正二 (国際農林水産業研究センター), 細田育広. 皆伐後の森林回復過程における融雪期の流出 - 釜淵森林理水試験地での解析 -. 日本森林学会大会学術講演集、134:201 (P-317)

21. 野口正二（国際農林水産業研究センター）、村上亘、阿部俊夫、細田育広．釜淵森林理水試験地観測報告－1・2・3号試験流域－（2006年1月～2010年12月）．森林総合研究所研究報告、21（4）:275-303
22. 阿部俊夫、久保田多余子、野口正二（国際農林水産業研究センター）、細田育広．釜淵森林理水試験地における皆伐とその後の植生回復が融雪流出におよぼす影響．日本森林学会誌、105（1）:1-10
23. 細田育広．基盤研究1ウk2：森林水文モニタリング－竜ノ口山森林理水試験地における2021年の概要－．森林総合研究所関西支所年報（令和4年版）、63:41
24. 細田育広．ヒノキ人工林30%間伐後5年間の林内雨量の経過．日本森林学会大会学術講演集、134:200（P-314）
25. 山下直子、小笠真由美、飛田博順．植栽直前の葉面散布がスギコンテナ苗の活着と成長に与える影響．日本森林学会大会学術講演集、134:P-123
26. 山下直子．広葉樹資源の持続的利用と地域再生．林経協季報柚径、68:25-29
27. 山下直子、北川涼、鈴木秀典、齊藤哲．広葉樹施業の収益は？ 林分価格－生産コストモデルによる検討．もつつかえる 日本の広葉樹林、8
28. 平田晶子、小南裕志、大橋春香、津山幾太郎、田中信行（東京農大、環境コンサルタント ENVI）、中尾勝洋、脇岡靖明（国立環境研究所）、松井哲哉．Global estimates of stress-reflecting indices reveal key climatic drivers of climate-induced forest range shifts.（気候ストレス指数の全球推定により気候変動にともなう森林分布域の変化の主要ドライバーを明らかにする）．Science of the Total Environment、824:153697
29. 鳥山淳平、中尾勝洋、橋本昌司．日本の森林域の気候変動予測の概要－5つの気候モデルの気温と降水量の比較－．森林総合研究所九州支所年報（令和4年版）、34:13-16
30. 宮本和樹、荒木眞岳（林野庁）、山川博美、中尾勝洋、栗屋善雄（岐阜大学）、渡邊仁志（岐阜県森林研究所）、久田善純（岐阜県森林研究所）．岐阜県郡上市における高齢スギ人工林のサイズ分布特性．森林総合研究所研究報告、22（1）:1-11
31. 内山憲太郎、中尾勝洋、津村義彦（筑波大学）．スギの適応遺伝変異の空間分布と気候変動への応答可能性評価．日本森林学会大会学術講演集、134:F6
32. 戸丸信弘（名古屋大学）、三須直也（名古屋大学）、鳥丸猛（三重大学）、内山憲太郎、中尾勝洋、竹内やよい（国環研）、遠山弘法（国環研）．普通種ブナにおける遺伝的多様性保全のための統合的研究－ゲノムから個体群動態まで．日本生態学会大会講演要旨集、70:S07-4
33. 頼承筠（名古屋大学）、玉木一郎（岐阜県森林アカデミー）、中尾勝洋、三須直也（名古屋大学）、鳥丸猛（三重大学）、内山憲太郎、戸丸信弘（名古屋大学）．ブナにおけるデモグラフィーの歴史の推定．日本森林学会大会学術講演集、134:P-202
34. TANEDA Haruhiko（種子田春彦・東京大学）、OGASA Mayumi Y（小笠真由美）、YAZAKI Kenichi（矢崎健一）、FUNAYAMA-NOGUCHI Sachiko（舟山（野口）幸子・東京大学）、MIYAZAWA Yoshiyuki（宮沢良行・九州大学）、Stefan MAYR（インスブルック大学）、MARUTA Emiko（丸田恵美子・神奈川大学）．Impact of freeze-thaw-induced pit aspiration on stem water transport in the subalpine conifer *Abies veitchii*.（亜高山帯針葉樹シラビソの凍結・融解による壁孔閉鎖が幹の水輸送に及ぼす影響）．Plant Physiology、190（3）:1687-1698
35. 小笠真由美、山下直子、藤井栄（徳島県農林水産総合技術支援センター）、飛田博順．育苗中の接触刺激がスギコンテナ苗の形状および植栽後の成長に及ぼす影響．応用森林学会大会研究発表要旨集、73:11

36. 才木真太郎、原山尚徳、小笠真由美、香山雅純、上村章、飛田博順. 土壌乾燥ストレスによるスギ苗木の point of no return (回帰不能点) について. 関東森林学会大会講演要旨集、12:15
37. 小笠真由美、山下直子、鳥居厚志、金子真司、飛田博順. 元肥の濃度と肥効期間の違いがスギコンテナ苗の成長に及ぼす影響. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-115
38. 小笠真由美、安田泰輔 (山梨県富士山科学研究所)、石田厚 (京都大学). 光学法による幹木部および葉のエンボリズムに対する脆弱性の評価. 日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-125
39. 才木真太郎、原山尚徳、小笠真由美、香山雅純、上村章、飛田博順. スギ苗木の土壌乾燥による樹木枯死の生理的な point of no return について. 日本森林学会大会学術講演集、134:G6
40. 小笠真由美. 切り株から再生した萌芽枝の機能とカタチ. もっとつかえる - 日本の広葉樹林、14
41. 北川涼、山下直子、斉藤哲. 広葉樹材の価格と決定要因. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-056
42. 宮岡伶安 (横浜国立大学環境情報)、北川涼、酒井暁子 (横浜国立大学環境情報). 侵食前線が規定する丘陵地微地形ニッチの進化 - 63 木本種の系統シグナル解析より. 日本生態学会大会講演要旨集、70:E02-09
43. 北川涼、山下直子、斉藤哲、大塚生美、御田成顕、小谷英司. 原木価格を基準にした広葉樹林の価格推定. もっとつかえる - 日本の広葉樹林、7
44. Shu-Kuan WONG (極地研)、KANEKO Ryo (金子亮・極地研)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、Akira S. MORI (森章・横国大)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研). Functional Gene Composition of Soil Microbial Communities Across a Latitudinal Gradient in the Arctic Region (北極域の緯度勾配に沿った土壌微生物群集の機能的遺伝子の変化). Polar Data Journal、6:1-8
45. 小林慧人、西山典秀 (東京大学農学生命科学研究科)、柏木治次 (エコパレ)、柴田晶三 (京都大学大学院地球環境学堂・地球環境学舎・三才学林). Mass-flowering of cultivated moso bamboo (*Phyllostachys edulis*) after more than a half-century of vegetative growth. (圃場の栽培環境下にあるモウソウチクが半世紀以上の栄養成長期を経て一斉開花した). Journal of Japanese Botany、97 (3):145-155
46. 小林慧人、大橋瑞江 (兵庫県立大学)、藤原道郎 (兵庫県立大学)、北山兼弘 (京都大学大学院)、小野田雄介 (京都大学大学院). Rhizomes play significant roles in biomass accumulation, production and carbon turnover in a stand of the tall bamboo *Phyllostachys edulis*. (モウソウチク林において、地下茎は、バイオマス蓄積、生産量、炭素の回転速度の点で重要な役割を果たす). Journal of Forest Research、28 (1):42-50、<https://doi.org/10.1080/13416979.2022.2090669>
47. 小林慧人. タケ類の開花 (竹の花) 情報をどのようにして集める?. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、29:2
48. Shitephen Wang (京都大学)、KOBAYASHI Keito (小林慧人)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、Chiung-Pin Liu (国立中興大学)、Tsai-Huei Chen (台湾省林業試験場)、Daniel Epron (京都大学)、DANNOURA Masako (壇浦正子・京都大学). Impact on carbon sinks and stocks (CSSs) after logging and abandonment in *Phyllostachys edulis* forests (estimated by a partial equilibrium model for carbon allocation in forest ecosystems [PEMCAFE]). (モウソウチク林において伐採や管理が生態系レベルの炭素シンクや貯蓄量に与える影響をモデリングの手法 (PEMCAF) を用いて推定した). India-Taiwan/Global Bamboo Tech Form-Series 2-Bamboo Carbon Fixation and Carbon Credit (招待講演) (国際学会) (2022)
49. 坂田ゆず (秋田県立大学)、小林慧人、蒔田明史 (秋田県立大学). Multi-trophic consequences of mass flowering in two bamboos (Poales: Poaceae) (2 種のタケ・ササの一斉開花が複数の栄養段階の生物に与える影響). Biological Journal of the Linnean Society、blac121、<https://doi.org/10.1093/biolinnean/blac121>

50. 相原隆貴（筑波大学）、小林慧人、高野（竹中）宏平（長野県環境保全研究所）、平田晶子、尾関雅章（長野県環境保全研究所）、松井哲哉. 長野県における竹林の分布とその地形条件. 日本森林学会誌、104（5）:286-294
51. 坂田ゆず（秋田県立大学）、加藤愛唯（秋田県立大学）、小林慧人. タケ・ササ類の花食者ササノミモグリバエの寄主植物利用. 種生物学会シンポジウム、54:P46
52. 小林慧人. 日本のタケの生態学的特徴と開花動態. 生き物文化誌学会要旨集、85:5
53. Shitephen Wang（京都大）、KOBAYASHI Keito（小林慧人）、TAKANASHI Satoru（高梨聡）、Chiung-Pin Liu（国立中興大学）、Dian-Rong Li（国立台湾師範大学）、San-Wen Chen（国立台湾大学）、Yu-Ting Cheng（国境なき医師団）、MORIGUCHI Kai（守口海・高知大）、DANNOURA Masako（壇浦正子・京都大）. Estimating divergent forest carbon stocks and sinks via a knife set approach.（発散する森林炭素蓄積量および吸収量の Knife set 法による推定）. Journal of Environmental Management、330:117114、<https://doi.org/10.1016/j.jenvman.2022.117114>
54. 小林慧人、崎谷久義（太市の郷）、梅村光俊. タケ開花林を初めて調査して学んだこと：姫路市「太市の郷」活動地のハチク林における6年間の調査事例から. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、30:3
55. 小林慧人. 会場の森林総研関西支所：タケ研究の足跡. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、30:3
56. 小林慧人、西山典秀（東京大学農学生命科学研究科）、柏木治次（エコパレ）、柴田晶三（京都大学大学院地球環境学堂・地球環境学舎・三才学林）. 実生由来のモウソウチク（イネ科）が半世紀以上の栄養成長期を経て一斉開花した. 日本生態学会大会講演要旨集、70:E03-06
57. 小林慧人、久本洋子（東京大学）、鈴木重雄（駒澤大学）、福島慶太郎（福島大学）、河合洋人（香川大学）、小林剛（香川大学）. タケ類開花の現況と開花記録の収集：市民参加型調査に向けて. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-260
58. 小林慧人. Massive investments in flowers were in vain: Mass flowering after a century did not bear fruit in the bamboo *Phyllostachys nigra* var. *henonis*.（花への多量の養分投資が無駄に：ハチクでは1世紀ぶりの一斉開花後に結実が見られなかった）. 日本森林学会大会学術講演集、134:60（日本森林学会学生奨励賞受賞業績要旨）
59. 小林慧人. 京都の竹林の状況. 竹林 SDGs グリーンコモンズ・プロジェクトブックレット、3
60. 小林慧人. 1950年代にタネから育てられたモウソウチクがついに一斉開花しました. 京都大学上賀茂試験地研究紹介、<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/kamigamo/research/introduction/>
61. 小林慧人. 今一度、竹について知ろう. 活動発表会講演会講演要旨（おかやま森づくりサポートセンター主催）、1
62. 小林慧人. モウソウチクの生態や管理：最近の研究. 森林総合研究所関西支所研究情報、147:2-3
63. 今村直広、Kunyang Wang（広島大学）、小野寺真一（広島大学）、清水裕太（農研機構）、小林政広、清水貴範、阿部俊夫、飯田真一、稲垣善之、岡本透、壁谷直記、久保田多余子、小南裕志、澤野真治、篠宮佳樹、高梨聡、玉井幸治、釣田竜也（農林水産技術会議）、野口正二（国際農林水産業研究センター）、延廣竜彦、細田育広、山下尚之. SWATを用いた山地森林流域における流出量の再現. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-319
64. 谷川東子（名古屋大学）、池野英利（福知山公立大学）、藤堂千景（兵庫県立農林水産技術総合センター）、山瀬敬太郎（兵庫県立農林水産技術総合センター）、大橋瑞江（兵庫県立大学）、岡本透、溝口岳男、中尾勝洋、金子真司、鳥居厚志、稲垣善之、中西麻美（京都大学）、平野恭弘（名古屋大学）. スギ根系が抱きかかえている土壌の量はどれくらい？－台風21号が地上に残した根鉢の解体－. 水利科学、383:1-14

65. 浅野友子（東京大学）、内田太郎（筑波大学）、岡本透、齋藤暖生（東京大学）、芳賀弘和（鳥取大学）、鈴木雅一（東京大学）. 第132回日本森林学会大会企画シンポジウム「燃料革命以降の森林状況変化の理解と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性」開催報告. 日本森林学会誌、104（1）:60-63
66. 石塚成宏、平井敬三、相澤州平、川西あゆみ（森林総研非常勤職員）、稲富素子（農研機構）、小林政広、古澤仁美、今矢明宏、山田毅、酒井寿夫、橋本徹、野口享太郎、岡本透、稲垣昌宏、酒井佳美、橋本昌司、山下尚之、島山淳平. 森林土壌インベントリ事業第三期の結果について. 日本土壌肥料学会講演要旨集、68:120（P8-2-10）
67. 志知幸治、池田重人、岡本透、菊地賢、内山憲太郎、中野陽介（只見町役場）. 福島県只見地域における地すべり後に生じた植生変遷. 日本花粉学会大会講演要旨集、63:35
68. 柳由貴子（山口大）、内徳桂子（山口大）、金子悠（山口大）、中尾淳（京都府立大学）、矢内純太（京都府立大学）、岡本透、太田陽子（緑と水の連絡会議）、藤間充（山口大）、平舘俊太郎（九州大）. 秋吉台半自然草原土壌の鉱物特性. 日本土壌肥料学会講演要旨集、68:P5-1-1
69. 志知幸治、池田重人、岡本透、菊地賢、内山憲太郎、中野陽介（只見町ブナセンター）. 沼ノ平地域の古環境－花粉分析に基づいて－. 只見の自然 只見町ブナセンター紀要、10:17-27
70. 志知幸治、池田重人、岡本透、杉田久志（富山県森林研究所）. 富山県上市町周辺における過去7000年間の森林変遷とスギの拡大. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-279
71. 橋本昌司、森大喜、阪田匡司、橋本徹、森下智陽、石塚成宏、山下尚之、清水貴範、小南裕志、深山貴文、岡本透、高梨聡、稲垣善之. 森林土壌メタン・CO₂フラックスの全国モニタリング網の構築. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-278
72. ITOH Yuko（伊藤優子）、OKAMOTO Toru（岡本透）、TAKASE Keiji（高瀬恵次・石川県立大）、HORISAWA Sakae（堀澤栄・高知工科大）. How COVID-19 pandemic affected air pollutants influx into forest ecosystems in Japan.（コロナ禍の影響に伴う日本の森林域における大気汚染物質流入量の変化）. Japan Geoscience Union（JpGU）Meeting 2022、AHW24-P16
73. 伊藤優子、岡本透、高瀬恵次（石川県立大）、堀澤栄（高知工科大）、小林政広. COVID-19のパンデミックによる経済活動低下が森林域への大気由来物質流入へ及ぼす影響. 日本土壌肥料学会講演要旨集、68:P1-1-9
74. HORISAWA Sakae（堀澤栄・高知工科大）、ITOY Yuko（伊藤優子）、OKAMOTO Toru（岡本透）、TAKASE Keiji（高瀬恵次・石川県立大）、KOBAYASHI Masahiro（小林政広）. Impacts on forest soil microbial ecosystems due to reduced declining activity in response to the spread of COVID-19.（COVID-19の感染拡大に伴う経済活動の低下による森林土壌微生物生態系への影響）. Japan Geoscience Union（JpGU）Meeting 2022、AHW24-P17
75. 木田仁廣、森下智陽、岡本透、石塚成宏、高田裕介（農研機構）、前島勇治（農研機構）、松浦庄司（農研機構）、瀧山律子（農研機構）、古賀伸久（農研機構）、草場敬（農研機構）、戸上和樹（農研機構）、若林正吉（農研機構）、永田修（農研機構）. 森林と樹園地・草地間の土地利用変化による土壌炭素蓄積量の変動. 日本ペドロロジー学会大会講演要旨集（2022）、P20:31
76. 岡本透. 埋没腐植層を通して斜面崩壊・土石流の発生と古環境を考える. 日本森林学会大会学術講演集、134:78（S6-1）
77. 林亮太（名古屋大）、眞家永光（北里大）、和穎朗太（農業・食品産業技術総合研究機構）、平野恭弘（名古屋大）、松田陽介（三重大学）、岡本透、谷川東子（名古屋大）. 酸緩衝能が異なるスギ・ヒノキ人工林における土壌有機物の蛍光特性. 日本森林学会大会学術講演集、134:111（I6）

78. 石塚成宏、橋本昌司、木田仁廣、相澤州平、酒井寿夫、篠宮佳樹、森下智陽、岡本透、鳥山淳平、白戸康人（農研機構）、古賀伸久（農研機構）、佐藤淳（三菱 UFJ & C）。土地利用が変化した場合の土壌炭素蓄積量変化を解明。森林総合研究所研究成果選集 2022（令和4年版）、4-5
79. ITO Eriko（伊藤江利子）、FURUYA Naoyuki（古家直行）、OHNUKI Yasuhiro（大貫靖浩）、MIYAMOTO Kazuki（宮本和樹）、ARAKI Makoto（荒木誠）、TAMAI Koji（玉井幸治）、SHIMIZU Takanori（清水貴範）、IIDA Shin'ichi（飯田真一）、KANZAKI Mamoru（神崎護・京都大）、MONDA Yukako（門田有佳子・京都大）、KABEYA Naoki（壁谷直記）、SHIMIZU Akira（清水晃）、TORIYAMA Jumpei（鳥山淳平）、Bora Tith（カンボジア森林局）、Samkol Keth（カンボジア森林局）、Chandararity Ly（カンボジア森林局）、Phallaphearaoth Op（カンボジア森林局）、Sophal Chann（カンボジア森林局）、KIYONO Yoshiyuki（清野嘉之・元森林総研職員）。Topographical patterns of species composition in a deciduous dipterocarp forest in Kratie Province, Cambodia.（カンボジアクラティエ州の落葉フタバガキ林における種組成の地形パターンについて）。Cambodian Journal of Natural History、2022（1）:18-37
80. 飯田真一、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、清水晃、荒木誠、大貫靖浩、伊藤江利子、田中憲蔵、鳥山淳平、久保田多余子、山中勤（筑波大学）、Sophal Chann（カンボジア森林野生生物研究所）、Delphis F. Levia（アメリカデラウェア大学）。カンボジア熱帯季節林地帯の落葉林における蒸発散過程：上層木および下層植生による水循環への寄与の解明に向けて。日本水文科学会誌、52（2）:65-72
81. 飯田真一、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、清水晃、伊藤江利子、大貫靖浩、Sophal Chann（カンボジア森林野生生物研究所）、Delphis Levia（アメリカデラウェア大学）。乾燥常緑林における降雨レジームとリーフフェノロジーが樹液流速測定値に与える影響。水文・水資源学会／日本水文科学会研究発表会要旨集（2022）、PP-2-23
82. 橋本徹、伊藤江利子、相澤州平、石橋聰。シラカンバ植栽木の生残と成長に対する地表処理の影響。日本森林学会大会学術講演集、134:P-094
83. 伊藤江利子、橋本徹、相澤州平、長倉淳子。連年施肥を受けたトドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ壮齢林における間伐前後のリター供給量。北方森林研究、71:53-58
84. 中村恵弥（名古屋大学）、角皆潤（名古屋大学）、中川書子（名古屋大学）、伊藤昌稚（名古屋大学）、高梨聡、坂部綾香（京都大学）、斉藤拓也（国立環境研究所）。三酸素同位体組成を指標に用いた対流圏二酸化炭素と陸域生態系の相互作用の定量化。日本地球化学会年会講演要旨集（2022）、69:PR0134
85. 野口正二（国際農林水産業研究センター）、小杉緑子（京都大学）、高梨聡。地質と流域サイズに基づくタンクモデルの貯留量と土壌雨量指数の比較。水文・水資源学会誌、35（5）:339-347、<https://doi.org/10.3178/jjshwr.35.1736>
86. MIYAMA Takafumi（深山貴文）、TAKANASHI Satoru（高梨聡）、KOMINAMI Yuji（小南裕志）、YOSHIFUJI Natsuko（吉藤奈津子）。Field Observation of Isoprene Flux above a *Quercus serrata* Forest Using the Thermal Desorption Chemiluminescence Isoprene Analyzer.（加熱脱着化学発光イソプレン分析計を用いたコナラ林上のイソプレンフラックスの野外観察）。AsiaFlux 2022 Book of Abstracts、187
87. SASAGAWA Taiga（笹川大河・筑波大学）、AKITSU Tomoko Kawaguchi（秋津朋子・筑波大学）、IDE Reiko（井出玲子・国立環境研究所）、TAKAGI Kentaro（高木健太郎・北海道大学）、TAKANASHI Satoru（高梨聡）、NAKAJI Tatsuro（中路達郎・北海道大学）、NASAHARA Kenlo Nishida（奈佐原顕郎・筑波大学）。Accuracy Assessment of Photochemical Reflectance Index (PRI) and Chlorophyll Carotenoid Index (CCI) Derived from GCOM-C/SGLI with In situ Data.（GCOM-C/SGLI から得られた光化学反射指数 (PRI) およびクロロフィルカロテノイド指数 (CCI) の現位置データを用いた精度評価）。Remote Sensing、14（21）:5352、<https://doi.org/10.3390/rs14215352>

88. 檀浦正子 (京都大学)、高梨聡、鎌倉真依 (京都大学)、王仁 (京都大学)、田邊智子 (京都大学)、藤井黎 (京都大学)、Epron, Daniel (京都大学、ロレーヌ大学)、小杉緑子 (京都大学). 高木の師部輸送は天気がいいと遅くなる. 日本植物学会大会研究発表記録、86:P-043
89. 高梨聡. 第1章 森林気象環境と熱水収支、蒸発散. 森林と水 (森林科学シリーズ5) (共立出版、182頁)、1-30
90. 平田晶子、小南裕志、深山貴文、高梨聡. マツ枯れによる大規模な枯死木の発生が地域スケールの炭素循環に与える影響. 日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-158
91. KIKUCHI Chihiro (菊池千尋・大阪公立大学)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪公立大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡). Increases in CH₄ uptake associated with rising atmospheric CH₄ concentrations at a temperate forest soil. (温帯森林土壌におけるメタン濃度上昇に伴うメタン吸収速度の上昇). iLEAPS-Japan 研究集会要旨集 (2022)、4
92. 深山貴文、高梨聡、小南裕志、吉藤奈津子. コナラ林におけるイソプレンの貯留特性. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-306
93. 深山貴文、高梨聡、小南裕志、吉藤奈津子. コナラ林におけるイソプレンの酸化消失過程. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集 (2023)、P-39
94. 小南裕志、深澤遊 (東北大学)、高木正博 (宮崎大学)、鈴木智之 (東京大学)、竹本周平 (東京大学)、平田晶子、高梨聡. 森林の枯死木が土壌炭素循環に与える影響の包括的評価の試み. 日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-160
95. 小南裕志、平田晶子、勝島隆史、北村兼三、松井哲哉、深山貴文、溝口康子、森下智陽、清水貴範、高梨聡、安田幸生、吉藤奈津子、平田竜一 (国環研)、高橋善幸 (国環研)、石戸谷重之 (産総研)、前田高尚 (産総研)、村山昌平 (産総研)、齋藤拓 (岐阜大学)、深澤遊 (東北大学)、高木正博 (宮崎大学)、鈴木智之 (東京大学)、竹本周平 (東京大学). New scheme for estimation of spatio-temporal forest Carbon budget in Japan. (日本の森林の炭素収支の時空間変動を把握する新しい枠組み). AsiaFlux 2022 Book of Abstracts、76
96. 檀浦正子 (京大農)、能勢美峰、福田有樹、三嶋賢太郎、松下通也、南尊大 (京大農)、田邊智子 (京大農)、Daniel Epron (京大農)、小南裕志、高梨聡、香川聡. 13C パルスラベリングを用いたスギ2品種の樹体内炭素配分. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-189
97. 岡野通明、小南裕志、深山貴文、吉藤奈津子、高梨聡、中井裕一郎、中野隆志 (山梨県富士山研)、鈴木純 (信州大農). 富士吉田森林気象試験地とその近郊において検出された最近の気候変動トレンド (2). 日本農業気象学会全国大会講演要旨集 (2023)、P-4
98. 高梨聡. 暖温帯落葉広葉樹林におけるガス交換特性. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-307
99. 山下尚之、大貫靖浩、渡壁卓磨. 市町村スケールにおける土層厚確率マップの作成. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-291
100. 古市剛久 (森林総研PD)、村上亘、岡本隆、志水克人、渡壁卓磨、山口智、大丸裕武 (石川県立大). ベトナム北西部山地斜面崩壊地域における地形・地質・気象・土地利用. 日本地球惑星科学連合大会 (2022)、HDS11-P05
101. 渡壁卓磨、松四雄騎 (京都大学). 地質の異なる斜面で発生した表層崩壊の斜面水文過程: 2014年広島豪雨災害を事例に. 日本地すべり学会研究発表会講演集、61:145 (3-21)

102. 渡壁卓磨、松四雄騎（京都大学）. 宇宙線生成核種 ^{10}Be の核種生成率に関する最新のスケーリング方法論. 日本地形学連合発表要旨集、3 (1):47 (P11)
103. 馬場俊明（京都大学）、松四雄騎（京都大学）、渡壁卓磨. 花崗岩山地の隣接源流域における土層発達および降雨流出過程の比較研究. 日本地形学連合発表要旨集、3 (1):49 (P13)
104. 馬場俊明（京都大学）、松四雄騎（京都大学）、渡壁卓磨. 花崗岩山地の隣接源流域における土層発達および降雨流出過程の比較研究. 京都大学防災研究所研究発表講演会（令和4年度）、D211
105. SCHAEFER Holger（シェーファ・ホルガクリスチアン）. Production and decomposition of mycorrhizal hyphae in Japanese cypress plantations（日本のヒノキ人工林における菌根菌糸生産と分解）. Proceedings of the 2nd International Conference On Agricultural Science & Research、18
106. SCHAEFER Holger（シェーファ・ホルガクリスチアン）. コンピュータ制御の顕微鏡を活用した土壌内菌糸の高解像度撮影の実現. 日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-288
107. SCHAEFER Holger（シェーファ・ホルガクリスチアン）. 菌根菌タイプが異なる林分における菌根菌糸の生産動態. 日本生態学会大会講演要旨集、70:W08-3（自由集会）
108. KANEKO Shinji（金子真司）、FURUSAWA Hitomi（古澤仁美）、OKAMOTO Toru（岡本透）、HIRANO Yasuhiro（平野恭弘・名古屋大学）. Dissolved organic matter (DOM) in a warm-temperate forested watershed—A possibility of ultraviolet absorbance as an indicator of DOM.（暖温帯森林流域の溶存有機物（DOM）—DOMの指標としての紫外吸光度の可能性）. Forests、13 (4):510、<https://doi.org/10.3390/f13040510>
109. MANAKA Takuya（真中卓也）、KOMATSU Masabumi（小松雅史）、SAKASHITA Wataru（坂下渉）、IMAMURA Naohiro（今村直広）、HASHIMOTO Shoji（橋本昌司）、HIRAI Keizo（平井敬三）、MIURA Satoru（三浦寛）、KANEKO Shinji（金子真司）、SAKATA Tadashi（阪田匡司）、SHINOMIYA Yoshiki（篠宮佳樹）. Ten-year trends in vertical distribution of radiocesium in Fukushima forest soils, Japan.（福島森林土壌における放射性セシウムの鉛直分布の10年間の変動）. Journal of Environmental Radioactivity、<https://doi.org/10.1016/j.jenvrad.2022.106967>
110. 金子真司. 福島原発事故における森林総合研究所の初期活動と成果. 山林、1663:36-43
111. 鳥居厚志. 竹を厄介者にはしていない. チルチンびと、113:174-176
112. 谷川東子（名古屋大学）、眞家永光（北里大学）、藤井佐織、Lijuan Sun（蘭州大学）、平野恭弘（名古屋大学）、溝口岳男、松田陽介（三重大学）. Contrasting patterns of nitrogen release from fine roots and leaves driven by microbial communities during decomposition.（分解中の微生物群集が駆動する細根と葉からの窒素放出の対照的なパターン）. Science of the Total Environment、855:158809
113. FUJIWARA Junichi（藤原淳一・神戸大学大学院）、MAETO Kaoru（前等藤薫・神戸大学大学院）、YOSHIMURA Mayumi（吉村真由美）. Effect of environmental factors on the abundance of riffle beetles (Coleoptera: Elmidae) and co-inhabit aquatic insects within a reach scale, in Japan.（ヒメドロムシを中心とした水生昆虫の生息数に及ぼす環境要因の影響について）. Journal of Insect Conservation、26:893–906、<https://doi.org/10.1007/s10841-022-00434-y>
114. 吉村真由美. 流されて生きる生き物たちの生存戦略. 築地書館、全228ページ
115. 東川航、吉村真由美、前藤薫（神戸大学）. 氾濫原性の希少種ミヤマアカネ（トンボ目トンボ科）の地域個体群構造の解明. 日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-231

116. 関伸一. コマドリ. 野鳥, 87 (3):12-13
117. 関伸一. さまよえるアカヒゲ: 分類をめぐる変遷と核 DNA からみたアカヒゲ種群の集団構造. 日本鳥学会大会講演要旨集 (2022), 102 (P033)
118. 八木橋勉, 関伸一, 平城達哉 (奄美市立奄美博物館), 木元侑菜 (奄美海洋生物研究会), 寛山一郎 (NPO 法人 徳之島虹の会), 小高信彦. 徳之島の鳥類の繁殖分布と森林環境との関係. 日本森林学会大会学術講演集, 134:P-402
119. 関伸一. ヤマガラ・クラッチサイズ・リビジテッド. バードリサーチ鳥類学大会講演要旨集 (2022), 23 (P-16)
120. Jauharlina Jauharlina (インドネシア・Syiah Kuala Universitas), Hartati Oktarina (インドネシア・Syiah Kuala Universitas), Rina Sriwati (インドネシア・Syiah Kuala Universitas), Muhammad Sayuthi (インドネシア・Syiah Kuala Universitas), 神崎菜摘, Rupert J. Quinnell (英国・University of Leeds), Stephen G. Compton (英国・University of Leeds). Association of fig pollinating wasps and fig nematodes inside male and female figs of a dioecious fig tree in Sumatra, Indonesia. (スマトラにおける雌雄異株イチジク属植物における、雌雄果実内部での線虫と花粉媒介イチジクコバチの関係). Insects, 13:320, <https://doi.org/10.3390/insects13040320>
121. 神崎菜摘, Meike S. Kruger (南アフリカ・プレトリア大), Jaco M. Greeff (南アフリカ・プレトリア大), Robin M. Giblin-Davis (米国・フロリダ大). *Bursaphelenchus suri* n. sp.: a second *Bursaphelenchus* syconial parasite of figs supports adaptive radiation among section *Sycomorus* figs. (2 種目の *Sycomorus* 節イチジク属植物内部寄生 *Bursaphelenchus* 属線虫、新種、*Bursaphelenchus suri*). PLoS ONE, 17 (4):e0265339, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0265339>
122. 神崎菜摘, 升屋勇人, 濱口京子. *Neomisticus platypi* n. sp. and *N. variabilis* n. sp. (Tylenchomorpha: Anguinidae) from dead oak trees in Japan. (日本国内のナラ類枯死木から分離された新種線虫 *Neomisticus platypi* と *N. valiabillis*). Nematology, 24 (4):361-381, <https://doi.org/10.1163/15685411-bja10135>
123. 神崎菜摘, Robin M. Giblin-Davis (米国・フロリダ大). Phylogeny and systematics of Aphelenchoididae: overview and problems. (アフェレンコイデス科の系統分類: 現状と問題点). International Congress of Nematology, Abstract, 7:96
124. 浴野泰甫 (明治大・農), 神崎菜摘, 新屋良治 (明治大・農). Variation of recognition mechanisms of predator species to other nematodes. (捕食線虫の餌認識メカニズムの多様性). International Congress of Nematology, Abstract, 7:704
125. 神崎菜摘, 濱口京子. A new aphelenchoidid insect parasite from a tenebrionid beetle, *Uloma marseuli*. (エグリゴミムシダマシより分離された新規昆虫寄生性線虫). International Congress of Nematology, Abstract, 7:727
126. 神崎菜摘. 線虫の記載分類: 隠蔽種との戦い. 日本昆虫科学連合・日本学術会議共催シンポジウム「ムシを極める! 昆虫分類学のフロンティア」要旨, 12:9-10
127. 神崎菜摘, 濱口京子, 井手竜也 (国立科学博物館). Comparison of geographical isolates of *Bursaphelenchus tadamiensis* (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae) with remarks on its preferred habitat. (*Bursaphelenchus tadamiensis* の地理系統と生息環境選好性). Nematology, 24 (7):809-819, <https://doi.org/10.1163/15685411-bja10169>

128. Erik J. Ragsdale (Indian University)、神崎菜摘、山下達矢 (明治大・農)、新屋良治 (明治大・農). *Tokorhabditis tauri* n. sp. and *T. atripennis* n. sp. (Rhabditida: Rhabditidae), isolated from *Onthophagus dung* beetles (Coleoptera: Scarabaeidae) from the eastern USA and Japan. (北米東部と日本のエンマコガネより分離された新種線虫、*Tokorhabditis tauri* と *T. atripennis*). Journal of Nematology, 54:e2022-1, <https://doi.org/10.2478/jofnem-2022-0028>
129. MAEHARA Noritoshi (前原紀敏)、AIKAWA Takuya (相川拓也)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、NAKAMURA Katsunori (中村克典). Trasfer of four isolates of *Bursaphelenchus doui* into *Monochamus alternatus* and potential vector switching of the nematode. (*Bursaphelenchus doui* 4 アイソレイトのマツノマダラカミキリへの乗り移りと媒介者の乗り換えが起こった可能性). Nematology, 24 (8):855-861
130. 市石宙 (明治大・農)、浴野泰甫 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). Predation drives convergent evolution of the thick and baggy cuticle in nematodes. (捕食が、線虫の袋状外皮の収斂進化を促進する). Nematology, 24:1131-1138, <https://doi.org/10.1163/15685411-bja10196>
131. 神崎菜摘、秋庭満輝、升屋勇人、辻本悟志 (沖縄美ら島財団). Description of *Ruehmaphelenchus kuroshioi* n. sp. and *R. interjectus* n. sp. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae) isolated from ambrosia beetles, *Euwallacea* spp. (Scolytinae), from Japan. (ナンヨウキクイ属養菌性キクイムシ類から分離された新種線虫、*Ruehmaphelenchus kuroshioi* と *R. interjectus* の記載). Nematology, 24:1157-1180, <https://doi.org/10.1163/15685411-bja10200>
132. Simo Sun (東大、宮崎大)、神崎菜摘、Mehmet Dayi (東大、イラン・Duzce University)、前田安信 (東大、宮崎大)、吉田明美 (宮崎大)、田中龍聖 (宮崎大)、菊地泰生 (東大、宮崎大). The compact genome of *Caenorhabditis niphades* n. sp., isolated from a wood-boring weevil, *Niphades variegatus*. (クロコブゾウムシから分離された新種、*Caenorhabditis niphades* の圧縮されたゲノム構造). BMC Genomics, 23:765, <https://doi.org/10.1186/s12864-022-09011-8>
133. IDE Tatsuya (井手竜也・国立科学博物館)、KOYAMA Asuka (小山明日香)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). Historical review of Japanese rose gall wasps (Hymenoptera: Cynipidae: Diplolepidini) with some biological information (日本のバラタマバチ (ハチ目: タマバチ科: バラタマバチ族) の歴史的考察と生物学的情報). International Congress of Entomology, 26:1090
134. KOSAKA Hajime (小坂肇)、SAYAMA Katsuhiko (佐山勝彦)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、TAKAHATA Yoshihiro (高畑義啓)、MAKINO Shun'ichi (牧野俊一・森林総研非常勤職員). Host range and geographical distribution of *Sphaerularia vespae*, the nematode parasite of queen hornets. (スズメバチ女王の寄生線虫であるスズメバチタマセンチュウの宿主範囲と地理的分布). Book of Abstracts, International Congress of Nematology, 7:738
135. OKA Teruki (岡輝樹)、IIJIMA Hayato (飯島勇人)、KAMATA Atsushi (釜田淳志・愛知県森林・林業技術センター)、ISHIKAWA Akira (石田朗・愛知県森林・林業技術センター)、EGUCHI Norikazu (江口則和・人間環境大学)、AIKAWA Takuya (相川拓也)、TAKAHASHI Hiroshi (高橋裕史)、KONDOH Hiroshi (近藤洋史)、YAYOTA Chizuru (八代田千鶴)、HAYAKAWA Masato (早川雅人・株式会社マップクエスト)、KOIZUMI Toru (小泉透・元森林総研職員). The Process of Population Expansion of Sika Deer. (ニホンジカ個体群の分布拡大過程). Sika Deer: Life History Plasticity and Management (Springer Singapore, 641頁)、11-23
136. 八代田千鶴. 林業事業体を主体としたシカ管理体制の構築へ向けて. 季刊森林総研, 57:16-17
137. 八代田千鶴. ニホンジカの来し方行く末. 森林と林業, 2022年7月号:14-15

138. 小坂井千夏（農研機構）、八代田千鶴、荒木良太（自然環境研究センター）、錯誤捕獲 WG. 錯誤捕獲問題に学会としてどう取り組んでいくべきか～「実態把握のための情報収集」と「発生防止のための技術開発」について議論を深める. 日本哺乳類学会大会講演要旨集（2022）、40（F15）
139. 浅野玄（岐阜大学）、山崎晃司（東京農業大学）、八代田千鶴、池田透（北海道大学）. 日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会および作業部会の活動方針. 日本哺乳類学会大会講演要旨集（2022）、44（F19）
140. 岸本康誉（野生動物保護管理事務所）、八代田千鶴、大場孝裕（静岡県）. ポスト半減目標～シカと人の未来を考える～. 日本哺乳類学会大会講演要旨集（2022）、32（F7）
141. 八代田千鶴、岡輝樹. 中国地方におけるニホンジカ分布拡大状況. 日本哺乳類学会大会講演要旨集（2022）、139（P-67）
142. 古澤仁美、八代田千鶴、平田滋樹（農業・食品産業技術総合研究機構）、横田勉（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）、高橋一英（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）. ニホンジカ捕獲個体の埋設が土壌水の水質へ及ぼす影響. 野生生物と社会、10:51-61
143. TORII Masato（鳥居正人）、ICHIHARA Yu（市原優）、MASUYA Hayato（升屋勇人）、HATTORI Tsutomu（服部力）. Trunk sap rot of Japanese cedar. (*Cryptomeria japonica*) caused by *Fomitiporella sinica*. (*Fomitiporella sinica* によるスギの幹辺材腐朽). Journal of Forest Research、27（5）:392-398
144. 鳥居正人、市原優、升屋勇人、服部力. 国内産チャアナタケの分類学的検討とスギに対する病原性. 日本菌学会大会講演要旨集、66:A33
145. 市原優、鳥居正人、相川拓也、服部力. *Fomitiporia punctata* によるヒノキアスナロの幹辺材腐朽被害. 森林防疫、71（5）:3-10
146. 升屋勇人、市原優、筒井杏子（筑波大学）. 北茨城市小川群落保護林に生息する樹木疫病菌. 日本森林学会大会学術講演集、134:226
147. 濱口京子. フラスを手掛かりにカシナガを探し出す. 森林総合研究所関西支所研究情報、144:2-3
148. 濱口京子、佐藤隆士（京都市）. Lifespans of two queen morphs of *Temnothorax spinosior* under experimental condition. (実験条件下にけるハリナガムネボソアリの大型女王と小型女王の寿命について). IUSSI International Congress、14:P171
149. 濱口京子、高原隆子（森林総研非常勤職員）、秋野順治（京都工繊）. トゲアリのワーカーが一回に運ぶ甘露の量について. 日本蟻類研究会大会講演要旨集、63:4
150. 齋藤和彦. 近代沖縄の杉山整理に関する理解の改訂. 亜熱帯森林・林業研究会発表論文集（令和4年度）、5
151. 齋藤和彦、田中邦宏. 近畿中国森林管理局管内の収穫試験地その1：関西支所が測定している収穫試験地の紹介. 森林総合研究所関西支所研究情報、144:4
152. 齋藤和彦. 近畿中国森林管理局管内の収穫試験地その3：収穫試験地の長期維持の難しさ. 森林総合研究所関西支所研究情報、146:4
153. 齋藤和彦. ブックス：林業遺産保全と活用に向けて. 森林科学、95:45-46
154. 齋藤和彦. 研究情報 世界自然遺産「沖縄島北部」における空中写真の利用. 森林と林業、2022年6月号:16-17

155. 小高信彦、高嶋敦史（琉球大学農学部）、谷口真吾（琉球大学農学部）、小林峻（琉球大学理学部）、阿部真、八木橋勉、齋藤和彦、Jason Preble（Terraformation）、中田勝士（南西環境研究所）。世界自然遺産に登録された沖縄島北部の森林管理における戦後非皆伐老齢林分的重要性について。亜熱帯森林・林業研究会発表論文集（令和4年度）、6
156. 齋藤和彦。明治末に行われた沖縄の森林所有の近代化に関する理解の改訂。日本森林学会大会学術講演集、134:89（A17）
157. 阿部真、安部哲人（日本大学生物資源科学部）、阿部篤志（沖縄美ら島財団総合研究センター）、高嶋敦史（琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター）、宮本麻子、齋藤和彦、小高信彦。絶滅危惧種オキナワセッコクの自生地と森林環境。日本森林学会大会学術講演集、134:P-458
158. 平野悠一郎。森林サービス産業をめぐる社会変動と学術的視座。東日本林業経済研究会（2022）、第3報告
159. 平野悠一郎、野間大介（筑波大学）、武正憲（筑波大学）。マウンテンバイカーの野外フィールドへの価値認識と地域貢献活動への志向。日本造園学会全国大会講演要旨集（2022）、2-5-3
160. HIRANO Yuichiro（平野悠一郎）。Western Impact on Small-scale Forestry Policy in China.（近現代中国の小規模林業政策に対する西洋の影響）。IUFRO 3.08.00 Small-scale Forestry International Conference 2022 Okinawa, JAPAN, SS12
161. HIRANO Yuichiro（平野悠一郎）。Forests to Revitalize Local Community: Adaptive Contribution Projects for Legitimacy by Mountain Bikers.（地域活性化を促す森林：マウンテンバイカーによる正当性確保を目的とした順応的な地域貢献活動）。edited by Miyauchi, T. and Fukunaga, M., Adaptive Participatory Environmental Governance in Japan: Local Experiences, Global Lessons、Springer、33-50
162. 平野悠一郎。森林アメニティの新たな動向 多様化する森林アクティビティの最前線（2）－森林でのマウンテンバイク：フォレストバイクの事例から－。森林レクリエーション、419:4-8
163. 平野悠一郎。「森林総合利用施設」で活用できる公民連携制度と活用事例。第2回「森林サービス産業」オープン・ラボ in Nagano、概要紹介 I
164. 平野悠一郎。日本の森林を「楽しむ」利用の拡がり課題。森林総合研究所関西支所研究情報、146:2-3
165. 平野悠一郎。コラム本の紹介：柴田晋吾著『世界の森からSDGsへ：森と共生し、森とつながる』。森林技術、967:34-35
166. 入江彰昭（東京農業大学）、森田涼太郎（東京農業大学）、宮林茂幸（東京農業大学）、木俣知大（上田女子短期大学）、田中伸彦（東海大学）、平野悠一郎、町田怜子（東京農業大学）、下嶋聖（東京農業大学）。別荘地管理における森林景観整備の必要性：群馬県嬬恋村を事例に。日本森林学会大会学術講演集、133:B9
167. 宮林茂幸（東京農業大学）、森田涼太郎（東京農業大学）、入江彰昭（東京農業大学）、木俣知大（上田女子短期大学）、田中伸彦（東海大学）、平野悠一郎、町田怜子（東京農業大学）、下嶋聖（東京農業大学）。北軽井沢の山荘文化とコミュニティ形成。日本森林学会大会学術講演集、133:B10
168. 木俣知大（上田女子短期大学）、宮林茂幸（東京農業大学）、田中伸彦（東海大学）、入江彰昭（東京農業大学）、平野悠一郎、町田怜子（東京農業大学）、下嶋聖（東京農業大学）。コロナ禍を踏まえた別荘地開発・管理に関する一考察：群馬県嬬恋村を事例に。日本森林学会大会学術講演集、133:B11
169. 平野悠一郎。日本におけるキャンプ場を通じた森林利用の発展と現状。日本森林学会誌、105（3）:76-86
170. 平野悠一郎。森林サービス産業の社会的・学術的位相。日本森林学会大会学術講演集、134:S4-5

171. 平野悠一郎、山口広子（筑波大学）. 2022 年度東日本林業経済研究会シンポジウム：森林サービス産業の可能性と課題. 林業経済、75（10）:22-27
172. 田中邦宏. 近畿中国森林管理局管内の収穫試験地 その 2 関西支所が測定している収穫試験地の紹介. 森林総合研究所関西支所研究情報、145:4
173. 田中邦宏、小谷英司、西園朋広. スギ人工林での肥大成長に対して局所密度と樹高・樹冠が及ぼす影響について. 日本森林学会大会学術講演集、134:137（P-059）
174. 田中邦宏、齋藤和彦、平野悠一郎、田中真哉、家原敏郎. 収穫試験地における森林成長データの収集－遠藤スギその他択伐用材林作業収穫試験地（岡山県鏡野町）定期調査報告－. 森林総合研究所関西支所年報（令和 4 年版）、63:43-44
175. 田中邦宏. 関西支所が測定している収穫試験地の紹介 その 4 収穫試験地のこれから. 森林総合研究所関西支所研究情報、147:4
176. 田中真哉、高橋興明. 航空機 LiDAR によるスギ・ヒノキ林の平均生枝下高の推定. システム農学会大会講演要旨集（2022）、63-64
177. 田中真哉. リモートセンシングによる森林資源・林分構造の広域評価に関する取組. 森林・林業交流研究発表会発表要旨（近畿中国森林管理局）（令和 4 年度）、特別発表 01
178. 田中真哉. リモートセンシングによる森林資源・林分構造の広域評価に関する取組. 森林・林業交流研究発表集録（近畿中国森林管理局）（令和 4 年度）、127-128
179. 田中真哉. 衛星データに基づく潜在的広葉樹資源量の推定. もっとつかえる 日本の広葉樹林、3
180. 高橋興明、田中真哉. 航空機 LiDAR データによる平均枝下高の決定方法に関する研究. 日本森林学会大会学術講演集、134:P-072

